

高岡市福祉・保健施設個別施設計画

2021 (R3) 年 3 月

2025 (R7) 年 4 月改定

高岡市

1 本市の公共施設マネジメントの取組み

本市では、これまで人口の増加や住民ニーズなどに応じて公共施設を整備してきましたが、現在、これらの施設の老朽化が進行しています。今後、人口減少や少子高齢化が進行し、厳しい財政運営を強いられることが見込まれる中、近い将来、老朽化した施設に対する多額の改修・更新費用が必要となることが見込まれます。

このため、本市では、公共施設の総合的かつ計画的な管理を進めるため、2016(H28)年3月に「高岡市公共施設等総合管理計画（以下「管理計画」という。）」を策定し、公共施設マネジメントの基本方針を「施設総量の適正化」「長寿命化の推進」「施設の有効活用」と定めました。

さらに、2018(H30)年3月には、公共施設マネジメントを強力に推進していくため、個々の施設の集約化、複合化、譲渡、廃止、コスト削減など、今後の具体的な方向性の指針となる「高岡市公共施設再編計画（以下「再編計画」という。）」を策定し、公共施設の総延床面積を2035(R17)年度までに15%削減する目標を達成するため、施設再編に取り組んでいます。

今後も維持していく施設については、管理計画に掲げる基本方針に基づき、耐用年数以上の使用を可能とするよう長寿命化を推進するため、「高岡市福祉・保健施設個別施設計画（以下「個別施設計画」という。）」を2021(R3)年3月に策定しました。

2 計画の位置づけ

個別施設計画は、管理計画の下位に位置づけられる計画です。

3 対象施設の概要

分類	施設名	所在地(地番)
障害者福祉施設・保健施設	きずな子ども発達支援センター	江尻 279 外
	ふれあい福祉センター	博労本町 4-1
	保健センター	本丸町 381-1 外
	福岡健康福祉センター	福岡町大滝 22 外

※個別施設計画で対象とする施設は、2025(R7)年3月31日現在で保有する建築物である。

ただし、現在稼働していない施設は対象外とする。

4 計画期間

13年間（2023(R5)年度～2035(R17)年度）

5 対象施設の状態等（建物状況、利用状況、収支状況（2023（R5）年度））

施設名	延床面積（m ² ）	構造	耐用年数（年）	建築年度（年度）	築年数（年）	資産老朽化比率（%）	劣化度（点）	耐震性（点）	利用者数（人）	収支（千円）
きずな子ども発達支援センター	1,987.07	鉄筋コンクリート	47	H10	25	52	15	100	23,434	▲91,382
ふれあい福祉センター	7,428.53	鉄骨鉄筋コンクリート	50	H8	27	57	17	90	178,074	▲53,525
保健センター	1,535.85	鉄筋コンクリート	50	S60	38	76	28	100	—	▲217,974
福岡健康福祉センター	1,881.80	鉄筋コンクリート	50	H13	22	42	21	100	10,697	▲6,465

資産老朽化比率は、35%～50%程度が平均的な値といわれており、対象施設は、平均で57%であり平均的な水準を上回っています。

劣化度は、改修を行った施設や日頃から丁寧な管理、利用が行われている施設は、築年数に関わらず低くなります。

耐震性は、耐震化不要の建物を100点、現行の耐震基準に満たない又は耐震診断未実施の建物を0点とし、対象施設は一部を除き耐震化不要となっています。

6 対象施設の今後の方向性

再編計画において、対象施設の今後の方向性を示しており、各施設の判定結果等は次のとおりです。なお、方向性が維持（コスト削減、利用促進を含む）の施設は、今後、長寿命化等により維持していくこととします。

再編計画（抜粋）

施設名称	方向性	実施期間			摘要
		I (2023-27)	II (2023-32)	III (2023-35)	
きずな子ども発達支援センター	コスト削減				
ふれあい福祉センター	一部廃止・機能縮小（体育館）	※			スポーツ施設の方針も踏まえながら、障害者スポーツの代替機能の確保に努める。 ※早期実施予定
保健センター	コスト削減				
福岡健康福祉センター	維持				

7 長寿命化の考え方

管理計画において、公共施設マネジメントの基本方針の1つとして「長寿命化の推進」を掲げています。「今後も保有し続ける必要性のある施設については、対症療法的な「事後

保全」から計画的な「予防保全」による維持管理にシフトし、定期的な点検・診断等により、劣化・損傷の程度や原因等を把握・評価し、優先度に応じた修繕を行うことにより、LCCの縮減を図るとともに、安全・安心を確保しながら期待される耐用年数以上の使用に努める」としており、この基本方針に基づき長寿命化を推進します。

また、公共施設の改修や更新の際は、誰もが使いやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた整備や改修等を必要に応じて進めていきます。

対象施設は、計画的な保全に努めてきたことから、一部の不具合を除き、躯体等に関する大きな問題はなく、今後、定期的な点検・修繕等を実施の上、必要があれば個別施設計画を見直すこととし、更なる長寿命化を図ることとします。

8 対象施設の対策費用

対象施設における設備の更新や改修等に要する対策費用は、計画期間中において 2.2 億円を見込んでいます。ただし、実際の対策費用は、工事発注時における詳細な設計や今後の災害等の発生状況、社会情勢の変化を踏まえながら算定します。

保健センターについては、長寿命化推進の観点から外壁及び防水の改修を行うこととします。

福岡健康福祉センターの庇屋根については、仕上げの剥離や防水保護モルタルのクラックが散見され、地震等で剥落の恐れがあるほか、放置すれば躯体への影響も懸念されることから、施設の安全性確保及び長寿命化推進の観点から修繕することとします。

また、廃止したふれあい福祉センタ一体育館については解体し、他の廃止施設についても、民間活用の検討や解体等の対応を進めます。

○用語解説

行	用語	解説
カ行	公共施設マネジメント	公共施設の総合的かつ計画的な管理を行う仕組み
サ行	資産老朽化比率	建物の取得価額に対する減価償却累計額の割合。資産の老朽化度合を表す指標で、35～50%程度が平均的な値といわれており、100 %に近いほど老朽化していることを表す
	事後保全	施設、設備が故障した段階で修繕を行うこと
タ行	耐震性	耐震化不要の建物を 100 点、現行の耐震基準に満たない又は耐震診断未実施の建物を 0 点とし、各棟の床面積で加重平均した値
ヤ行	予防保全	施設、設備を計画的に点検・修繕し、故障を未然に防ぐこと

ラ行	LCC（ライフサイクルコスト）	施設の計画、設計の段階から建築、維持管理、解体に至るまでに必要な費用の総額
	劣化度	施設管理者が行う部位ごとの点検結果(A～Dの4段階評価)を点数化したもの。点数が大きいほど劣化が進行していることを意味する